

タカラコラボラボ 第7回・第1期第7回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)7月23日(火)18:30～
開催場所	第2庁舎 会議室A・B
次 第	1 開会 2 議事 (1) ロゴマークに使用するまちキョンについて (2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について (3) 今後の議事について 3 その他 (1) TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議)の開催時間について 4 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、大関委員、上田委員、岡田委員、橋之爪委員
開催形態	公開(傍聴人 2名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2名であることを報告した。

2 議事

(1) ロゴマークに使用するまちキョンについて

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア (会長) まちキョンのデザインについて何かご意見はあるか。

(意見なし)

イ 特に意見なしということなので、こちらのデザインでいきたいと思う。

(2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア (会長) 資料5のイベントの実施方法について、事務局案を参考にしながら、意見をいただければと思う。

イ 前回、実施方法について具体的に詰めていく中で、これぐらいの規模で実施するとなったことは覚えているが、改めて事務局案を見ると、この会議自体も費用や人件費がかかっている中で、規模的にこじんまりとしているように見えてもったいない気がする。プレイヤーを増やすことも目的の一つではあるが、どちらかというと、私はこの会議自体が、宝塚市は協働のまちづくりの推進に力を入れている街だとアピールをしていくのだと思う。例えば、給食が美味しいという話は

子供たちからよく聞くし、給食が美味しいというイメージは他の人からも聞く。発言することでそういう街になっていくという印象があるので、そこを目指してもいいのではないかなと思う。例えば、イベントをニュースで取り上げてもらって、多くの人の目につくようなアイデアは何かないかなと思っている。

ウ （会長）PR ブースの内容として、少しでも目を引くような話題があればということだったと思う。何かイメージはありますか。

エ イ委員の意見には賛同するが、今ここでいい案は出てこないと思う。この事務局案からどう面白くするかということがメインだと思う。テーマを決めてイベントを開催するという方向なので、イ委員がおっしゃったような給食をテーマにやりましょうという案があれば、それに賛同して協力する形で考えていかないと多分面白くならないだろうと思う。また、イベントの進め方にも問題はあると思っている。最初1時間はPR ブースでの交流、後半1時間は全体での交流と、時間を区切る意味があるのかあまり分からない。でも、例えばPR ブースにテーマがあって、最初1時間はこのテーマを目的に参加された方向けの掲示物があって、掲示物の内容が具体的であれば、掲示物をメインに参加してもらえないのではないかなと思う。事務局案では、PR ブースで5団体ぐらいが自分たちの活動を紹介するとなっているが、そこに目玉の団体を呼んでくるのが面白くできる要素になるかなと思う。

オ （会長）進め方の面白さは工夫できる部分があるという話だったと思うので、それを考えていきたいと思う。不思議に思ったことで、全体の交流会とあるが、この時にファシリテーターの役割の人はいないのか。進め方等のイメージはこれからだと思うが、案はなにかあるか。このレイアウトを見ると、最初はPR ブースでの交流で、パネルには活動の説明と写真、地図等を展示してもらおうということではよろしいか。

カ （事務局）まず、1部と2部で分けた意図だが、前回の意見交換で、職業相談会という例をどなたか出してくださっていて、そのブースの前に行ったら説明してくれる人がいて、自分の好きなブースで気軽に話が聞けたらいいのではないかなというご意見をいただいた。そうするとPR ブースで話を聞く際には、少なくともブースに団体の方がいてくださらないと話が聞けないため、一定時間はブースに張りついていただく時間が必要だと思い、1部2部に分けた。ただ、ブースに張りついたままだと、PR ブースに参加する団体同士が繋がる機会がなくなってしまうため、2部は自由に交流するという構想で2部構成としている。

キ 参加者の集め方をどうするかということについて、今まで話してきた中でPR ブースはどういうテーマの内容を選ぶかということが1つあると思う。そのため、チラシや案内の段階において、いかに多くの人に参加してみようかなと思ってもらえるかが重要となる。先ほど言われたように、例えばまちづくり協議会などの団体が行っている活動を宝塚市としてPR していると周りに感じてもらえるようにできればいいと思う。今回の目的として、プレイヤーを増やすことが大きなテーマ

である。先ほど伊委員、エ委員がおっしゃったように、イベントに参加してPRブースで団体の話を聞いてみようという気持ちにさせることが重要である。だから、イベントの実施方法はこれでいいと思う。最初から宝塚市の魅力を伝えるところまでにするのは少し難しいと思うが、イベントをやっていく中でそれはできるのではないかなと思う。一番やらないといけないことは、プレイヤーを見つけることだと思う。イベントに参加してもらえるような魅力的な内容にするために、やり方や中身を考えていかなければならないと思う。

ク 私が先ほど発言したこととして、このやり方自体をひっくり返そうと思ったわけではなくて、やり方はこれでいいと思う。少しお聞きしたいのが、事務局として思っている何か目玉になりそうな団体や目を引くような団体があるのかを教えてください。

ケ（事務局）ご提示しているのはあくまでそのやり方の大枠部分の話をしているため、先ほどご発言いただいた通り、イベントをどう面白くするのかというのは、イベントの内容をどうするのかということに影響してくると思う。テーマ、参加してもらう団体によってやり方も多少チェンジしてもいいと思うし、あくまでもこのような流れでイベントできたらいいのではないかなということを経済委員の意見交換でまとめられたと考えている。参加してもらう団体やテーマは、委員の皆様とざっくばらんに意見交換をしながら決めていきたいと思っている。TaCoLABの委員の皆様の団体にはぜひ参加して欲しいという思いはあるが、皆様の繋がりから面白い活動をされている団体がいるという情報もあると思うため、今後もそういう話はこの審議会場で意見交換をしていきたい。その前段階として、TaCoLABに上げる案を事務局と一緒に考えていく作業班を結成させていただきたいと考えている。その作業班でテーマや参加してもらう団体について、ざっくばらんに話をして案を作っていくと考えている。

コ（会長）イベント全体の流れとして、資料5の進め方でいいかということの確認ということだった。今後話し合いを進めていく中で、若干やり方が少し変わるかもしれないが、作業班で考えていくということよろしいか。

サ 確認も含めての発言だが、今回の目的が「まちづくりに関わるプレイヤーづくり」ということで、令和6年度中に2回は開催するという決まっているのかと思う。このテーマでいくと、1回では終わらないような気がする。我々と事務局で意思統一しておきたいと思っている。当然イベントをする度にフィードバックをして、結果はどうだったのかという話し合いをやることになると思うが、内容によっては令和7年度以降も継続して実施していかないといけないと十分想定できると思う。そのため長期化するという覚悟を我々も含めて持つておかないといけないのではないかなと考える。このことについて意見交換をしたいと思っている。

シ（会長）非常に重要な視点のご指摘だったと思う。1つのテーマでも、2回3回と話をすることはあるだろうし、社会の活動状況も変わっていくと思う。継続的に

いろいろと実施するのは重要ではないかというご指摘だった。

ス 私たちがやろうとしていることは1回実施してすぐ解決してしまうような問題ではない。学会を例に挙げると、自分たちはよかれと思ってやっているが、参加した人の考えや意見がある。それを受けてそのグループがレベルアップしていくことによって、団体の活動内容が深まってくるので単発で終わるものではない。例えば1回目を実施して、新たに2回目のテーマを選ぶか、1回目と同じテーマでもう一度やるというケースが出てくる。要するに、プレイヤーづくりをしなればいけないため、イベントを通して仲間を増やしていくためには繰り返し実施していくしかないのではないかと思う。

セ（事務局）令和6年度は一旦2回実施と考えているが、その2回で終わるものではないという認識でいる。プレイヤーづくりという大きな目標をもとに、ブラッシュアップもしながらイベント内容は実施する度に考えていきたいと思う。事務局も、来年度以降も実施したいと思っているため、委員の皆様にもご協力いただいて、一緒に取り組んでいきたいと思う。

ソ 継続して実施していくということを確認できたので、当然、私も継続して協力していきたいと思っている。もう1点、まちづくりに関わるプレイヤーづくりに関する議論については、この会議が主体的に動いていくと考えていいかどうかということについても委員の皆様、事務局の意見を聞かせていただきたい。この場がそういったことについて議論する場であるという認識でいらっしゃるか共有したいと思う。

タ 私は最初からそういうつもりで参加している。1回のイベントでプレイヤーが増えるということはない。プレイヤーは地域に根付いていかないとしょうがないため何年もかかると思う。

チ 事務局の提案について、骨格としては賛成。テーマは防災や子育てといったことについて経験を持った方々が、PRブースで説明して、そのテーマに興味をもって参加した方々をプレイヤーにするべく周知していかないと成り立たない。例えば、こんなことをしたいという方に対して我々はこういうことをやりましたという紹介ができて、ある程度会話が成り立てば、繋がりやの輪は大きくなると思う。あとは、PRブースに参加してもらう団体をどうやって呼んでくるか。ファシリテーターの役割は必要であると思うし、全体的なコーディネーターをする役割などいろいろな役割が必要である。また、今回は1月3月と期間が決められているが、例えば来年度は時期を振り分けたり、子育て世代の人たちが出やすい時期を選んで実施していくようにしないといけない。期間が空いてしまうと、忘れられてしまうという印象がある。

ツ ソ委員のご発言に対して、このメンバーでプレイヤーとはどんなプレイヤーであるかを考えたり、プレイヤーづくりに関わっていく覚悟はある。しかし、目的を読むと曖昧で、本当に何を目指していくのかというのが私の中で全然分かっていないというのがある。ただ、ここを明確に決めるのは難しいことだと思っています。

る。メンバーのやりたいことや、目指すプレイヤー、どんな人をプレイヤーとするのかということも委員の皆様でそれぞれあると思う。思いつきではあるが、いろいろやっていく中で、例えばどうやってプレイヤーが増えたのかなど、何をしたら、何がよかったというフィードバックがかなり重要だと思う。これまでも様々なイベントや交流会が実施されているが、いまいち効果がわかってないとか、それを特に活かせていないというのがかなりある。何回も同じようなことを話しているというのがよくあると思う。PR ブースの団体を呼ぶにしても、また同じようなことをするのかという反応になるだろうと思う。だから、これまでとは違うというような内容が欲しいと思う。

テ （会長） 重要なご指摘がいっぱい出てきたが、効果を図らないといけないというのは、イベント終了後にアンケートを回収して、参加した人のご意見を吸い上げていかないと、次また実施する時に同じ失敗をするのは避けたいと思う。この方がイベントに参加して楽しかった、或いはまちづくり活動に参加できそうだと思ってもらえた方が多ければ多いほどいいと思う。もう 1 点は、PR ブースの団体の方 2 名もいらっしゃることだが、その方も仲間は欲しいのではないかなと思うので、イベントで LINE 等の連絡先交換をどのぐらいしたのかということにも興味がある。多くはないかもしれないが、やはり連絡先を交換することで意見交換もできるし、仲間になる方もいらっしゃると思う。そういうこともリサーチできたらいいかと思う。

ト ツ委員が言われたように、PDCA サイクルを回すことについて、過去にアンケートをとったことはあるが、そのアンケートが次に繋がるような内容になっているかどうかということを考えたときに、参加してよかった、こんなことを一緒にやってみたいという意見がある一方で、このテーマは面白くなかったという意見も出てくると思う。そうなれば次の段階に進む。評価する上でやはりアンケートは重要である。イベントに対する評価や、どれぐらいまちづくりに関わりたいという意欲があるのかが分かる内容にしたいと思う。逆に、こんなイベントをしたらいいのではないかという意見も出てくるかもしれない。また、私たちの役割というのは、プレイヤーづくり、仕掛けをつくることだと思う。いかにその仕掛けをつくりながら、イベントに参加した方々を新たなプレイヤーにしていくということも、我々の役割である。評価も重要であると同時に、仕掛けづくりも重要だと思う。だから、2 回目以降のイベントではスタッフとして参加するという人も出てくると思う。

ナ 頭に浮かんだのが、参加される方々の年齢層によって活用できるか分からないが、私が PTA 等で活動していた時はオープンチャットやグループチャットを使っていた。オープンチャットは、あとで気になった時に何でも聞ける、いつでもできる場所としてかなり役に立っている。そういう繋がりがあるとそこで人が増えていくということもあると思う。LINE に慣れている方々であればそういうことを続けてもいいのではないかと思った。

ニ （会長）オープンチャットという方法もある。助成金については一番悩むところで、どういう助成金があつて、どのように申請すればいいのだろうと思うことがある。イベントの実施方法についてはこのような形で進めさせていくという大枠はもう決定してよろしいか。

（意見なし）

ヌ こちらで決定とする。

（３） 作業班について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア 作業班のメンバーは、何人くらいの想定か。

イ （事務局）人数制限は特に設けていないため、ご希望の方皆様に入っていただければと思う。過去行った作業班は５～６人だったと思う。

ウ （会長）スケジュールや開催頻度の関係で今すぐ挙手ができなくても、後から参加できると言ってくだされればいい。イベントを面白くしたいと思いがある方はぜひ参加していただきたく思う。よろしくお願いします。

エ （事務局）頻度については、内容によっても異なる。話がまとまらなければ何度も開催することもあるし、数回で終わる場合も考えられる。１回当たりの時間は、１時間～１時間半で、場所は市役所で実施していた。報酬は無償でお願いしたいと考えている。今回、実施方法の大枠を決めていただいたため、まずは参加団体を決めていき、実施内容の詳細やアンケートの内容等を話し合っていきたいと思う。可能であれば８月に１～２回行って、次回の９月のTaCoLABで作業班の報告をする流れで考えている。月に１～２回できれば、１月初旬には、イベント１回目ができるのではないかというスケジュールを考えている。

オ 前身の促進委員会での作業班参加経験者として補足すると、こういう場だけでは話ができないこともざっくばらんに話をして決めていく。TaCoLABが月に１回ぐらいで開催されていて、TaCoLABまでにある程度決めておかないといけなくなれば、２回実施するということもある。自分のアイデアがだんだんと形になっていき、全体場で意見が受け入れられていく。反対にこうしたほうがいいのかという意見もあるが、そういう機会が増えていくと面白いアイデアが出てくると思う。幅広い世代から魅力的だと感じてもらえるような話し合いは作業班で詰めていくしかないと思う。

カ （会長）皆様参加に同意してくださったため、全員参加してくださるということでこの話は終わりにする。

（４） 今後の議事について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア （会長）「協働の事例集」に掲載されている事例はどのように集められたのか。

イ （事務局）当時の協働のまちづくり促進委員会で検討したが、事務局で一定事例

収集して、会議の場で提案した。それ以外にも委員の皆様から事例を出していただいて、いくつか出た中からこの6つの事例をピックアップした。事例集の内容については、促進委員会の委員の皆様がそれぞれ団体にインタビューに行っていて作成いただいたと聞いている。

ウ （会長）取材に行くと生の声が聞けて、現場が見られるのですごく楽しいと思う。

エ （事務局）市としては事例集の更新に向けて取り組んでいきたいと思っている。都市経営会議という市の最高意思決定会議の中で、事例集は宝塚市の協働を説明するとき大変参考になるため、ぜひ更新をしてほしいという声があった。社会の状況も変化しているため、条例を検証するにしても、市内の事例を知っておかないといけないと思っている。委員の皆様と意見交換をしながら取り組んでいきたいと考えている。

オ （会長）レイアウト等も会議の中で決めたのか。

カ 取材の内容をもとにして、委員が事例集の文章を書いて、こんな写真を入れようというのも話し合って決めた。立派な事例集が完成したと思うが、作成してから時間が経っていくと、また違った事例が出てくる。時代に対応した事例を掲載できると職員の方々も参考になると思う。事例が多ければ多いほどプレイヤーづくりに繋がるため、1つの引き金になるのではないかなと思う。

キ 事例を基にしながら、協働のマニュアルや条例を見直していくということだった。ご意見はないか。

（意見なし）

ク 特に意見はないため、これでやっていきたいと思う。

3 その他

（1）TaCoLAB（宝塚市協働のまちづくり推進会議）の開催時間について

ア （事務局）TaCoLABの開催時間についてご意見を伺いたい。協働のまちづくり促進委員会は、当時人数も多かったし、日中お仕事やご家庭の関係で夜の時間帯が参加しやすいということで、18:30開始としていた。TaCoLABになってから委員の皆様が参加しやすい時間帯になっているのかを伺えていなかった。夜間という時間帯が、出席しにくいという声も聞くため、18:30という時間に限らずに、日中の時間帯も含めて、日程調整をしたいと考えている。ただ、9月3日は決定しているため予定通り18:30からの開催にしたい。皆様のご意見を伺いたい。日中に開催してほしいという方はいらっしゃいますか。

（数名、挙手）

イ （事務局）9月3日以降の日程調整をする際は、日中も含めて日程調整をさせていただく。

（2）情報共有

- ア 市役所の広場でスケートボードをやっている人がいた。それを見て市の担当課に連絡をしたが、その後の連絡がない。市民は色々なところでよくないことも含めて様々な事例をみる。それを市の担当課に話をして、市はしっかり対応してくれているのか。市内で起こっていることは市民が最初に見つける。でも市民が報告した時に、それに対する行政側の対応がとても重要だが、レスポンスが早い課とそうでない課がある。根本的に協働の観点から言えば、市民と市の財産を守ろうと市民が言っているが、それに対する市のレスポンスをもう少しよくしてほしいと思う。これは協働の基本ではないかと思う。
- イ (事務局) おっしゃる通りだと思う。レスポンスが早い課とそうでない課があるのは把握しており、皆様にご迷惑をおかけしていることは実感している。広聴担当をしている市民相談課と改善に向けて取り組んでいく。
- ウ 小さなことであったとしても、市民から情報を受けて市が対応することは市の財産を市民も行政も一緒になって守るということになると思う。

4 閉会

以 上